

食生活、5 A D A Y等の認知実態

食事バランスガイドの認知度は、【学校】、【親子】、【運営者】のいずれでも、約半数近くを占めている。その認知経路は、「新聞・雑誌・本」などのメディア経由が多い。
 5 A D A Yの認知率（内容を知っている+見たこと・聞いたことある）は、【学校】、【運営者】では約半数あるが、【親子】では、3割程度に留まっている。認知経路としては、「新聞・雑誌・本」を通してが一番多い。
 5 A D A Y食育体験ツアーの認知は、【学校】では、約4割ある一方で、【親子】では事前を知っていると回答した人はいなかった。
 野菜摂取の目安量は、350g以上という具体的な量まで知っている割合は、3割以下である。（【学校】、【親子】、【運営者】共通して）
 目安量を知っている人の認知経路は「新聞・雑誌・本」が最も多く挙げられている。

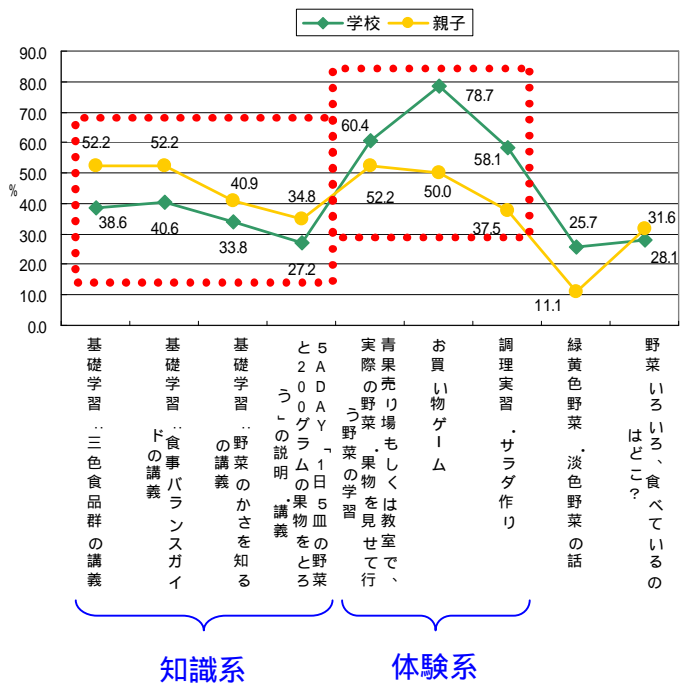
プログラム評価

各プログラムとも約3割以上で「とても良かった」という評価で、概ね高い評価を得ている。

知識系プログラムと体験系プログラム別に評価を見ると、【親子】では評価に大きな差は見られなかった。一方で、【学校】では体験系プログラムの評価が知識系プログラム評価より高い結果となった。

プログラム全体としての評価は6割以上が「とても良かった」と回答し高い評価を得ている（P.5；総合評価を参照）。
 【学校】側では、知識系プログラムが体験系プログラムより重要視され、各プログラムのボリュームや難しさなども重要視される傾向にある。（P.21～22参照）

知識系プログラムやプログラムのボリューム、難易度は今後のツアー全体の発展的な検討課題として挙げられる。

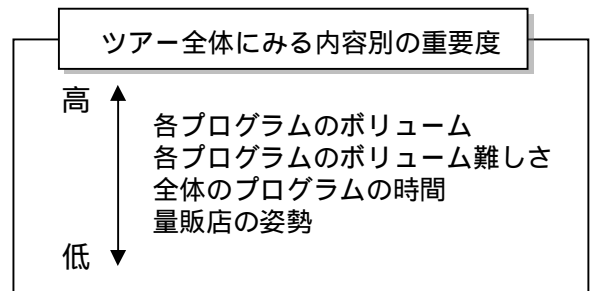


プログラム評価（5段階評価）にて「とても良かった」と回答した割合

行動変容

実際に参加した児童だけでなく、同行した教師や保護者自身も野菜を積極的に食べるようになるなどの食生活の変化が見られた。（【学校】で約6割、【親子】で約7割がより野菜を食べようになったと回答）

児童については、食事のバランスを意識する、野菜や果物に興味を持ったり、重要性を理解するといった意識・理解面で効果があったとする割合が多かった。



詳細はP.21～22をご参照下さい。

調査結果サマリー

	学校	親子	運営者
実施後の効果を感じられたこと 上位3項目 <small>「かなりあてはまる」、「ややあてはまる」の合算</small>	食事のバランスを意識すること 65.4% 野菜と果物に興味を持つようになること 63.1% 野菜の好き嫌いがなくなること 56.1%	食事のバランスを意識すること 73.9% 野菜と果物に興味を持つようになること 73.9% 野菜と果物の栄養について重要性を理解すること 56.5%	社会貢献となった 100.0% 企業価値が上がった 92.0% メディアへの露出ができた 73.0%
プログラム内容評価が高かった 上位3項目 <small>「とても良かった」の値</small>	お買い物ゲーム 78.7% 実際の野菜・果物を見せて行う野菜の学習 60.4% 調理実習・サラダ作り 58.1%	基礎学習 三色食品群の講義 52.2% 基礎学習 食事バランスガイドの講義 52.2% 実際の野菜・果物を見せて行う野菜の学習 52.2%	お買い物ゲーム 88.9% 実際の野菜・果物を見せて行う野菜の学習 81.5% 基礎学習 食事バランスガイドの講義 77.8%
講師評価が高かった 上位3項目 <small>「とてもわかりやすかった」の値</small>	調理実習・サラダ作り 62.1% お買い物ゲーム 57.3% 実際の野菜・果物を見せて行う野菜の学習 47.2%	実際の野菜・果物を見せて行う野菜の学習 63.6% 基礎学習 三色食品群の講義 56.5% 調理実習・サラダ作り 54.5%	基礎学習 食事バランスガイドの講義 59.3% 基礎学習 三色食品群の講義 48.1% 実際の野菜・果物を見せて行う野菜の学習 48.1% お買い物ゲーム 48.1%
総合評価	とても良かった 64.4%	とても良かった 65.2%	とても良かった 51.9%
今後の意向	参加してみたいと思う 75.7%	参加してみたいと思う 65.2%	参加してみたいと思う 66.7%
推薦度合	薦めてみたいと思う 64.1%	薦めてみたいと思う 65.2%	薦めてみたいと思う 66.7%